

日本学校健康相談学会第21回夏季ワークショップのご案内

テーマ 「あなたの困りごとは私の困りごと—協働で支える—」

私は地元金沢で養護教諭の自主研究サークルを主宰し、2023年7月には75回を迎えます。この75回を振り返って感じることは、とても似た事例が多いという事です。きっと同じように感じるメンバーも多いことでしょう。事例検討中に、「私が関わっているあの子に似てる。」そんな声が上がります。それは自分が悩み苦しんでいる事例の類似ケースはいたるところで起こっているという事だと思います。そしてその中には、それぞれの事例の個別の課題というより、現代の社会や学校の風土の課題もあつたりするのではないのでしょうか。そういった意味で、**事例提供者の困りごとは私自身の困りごと**であり、今の日本の学校の困りごとでもあると思うのです。

事例は、一つひとつ個別の事情があり、一つとして同じ事例はないと言われ、一つひとつに丁寧な見立てが必要です。しかし一方で類似性を見極め、他の類似の事例で有効であった分析の方法、事例への視点の当て方、組織コーディネート、手立てなど、事例検討で学べることはたくさんあります。**事例提供者の困りごとにかかわることは、私自身の困りごとへのヒントをいただくのだとひしひしと感じるようになり**ました。そしてまた、子どもたちを支援していて日々感じることは、どんなに高い志を持ち、子どもたちに寄り添いたいと思っても自分一人の力ではどうにもならないことばかりだということです。一人一人が、その子らしさを存分に発揮できるように環境を整えたいと思う時、関わる人々と「協働」が必要になります。養護教諭は、支援する人々をつなぐ基地でもあるということも感じるようになりました。

そこで本年度のワークショップは私が実感している「あなたの困りごとは私の困りごと」をメインテーマとし、協働、組織コーディネートを考えるワークショップを企画いたしました。オンラインで開催し、遠方の方にもふるって参加していただきたいと願っております。
(竹俣 由美子)

【午前】 講演 群馬大学大学院教授 佐藤 由美氏

佐藤由美氏は『個別課題解決から地域課題解決につなげる 複雑かつ多重課題事例を支援する事例検討の手引き』（日本看護協会）の執筆者のおひとりでもあります。この手引書は保健師を対象に書かれたものですが、そこには、一人職種である養護教諭が様々な人々を巻き込んで組織的対応を構築していくエッセンスがあるのではないかと考えます。

『個別課題解決から地域課題解決につなげる 複雑かつ多重課題事例を支援する事例検討会の手引き』より

個別事例から地域課題を検討する必要性～

地域における日常業務の中で出会う複雑かつ多重課題事例を支援するために、保健師は様々な関係者を交えた事例検討会を行っています。その目的は、「個人や家族の抱えている課題をいかに解決するか」、また「その課題の悪化をいかに予防するか」に重きが置かれるのが一般的です。しかし、複雑かつ多重課題は、個人や家族の健康や生活に由来して発生している場合と、健康の社会的決定要因や地域における社会資源の不備など様々な理由から生じている場合があります。さらに、これらの背景・要因もまた複雑に絡み合い、互いに関連し合っているのが現状です。つまり、保健師が複雑かつ多重課題事例を支援する際には、個別課題の解決だけに注力していても、実は根本的な解決にはつながらないといえるのです。公衆衛生の有名な例えを借りれば、それは、川の下流で溺れた人を助け続けるのと同じことです。川の上流から予防的な支援を展開するためには、個別事例の背景に潜在している地域課題に目を向け、その解決に向けて対策を講じる必要があるのです。



【午後】事例検討

2つのグループに分かれて事例検討を行います。オンラインでは個人情報保護の観点から、現在関わっている詳細な事例検討は困難と考えます。そこで今回は終結した事例で、学校内外の方と連携が必要だったのではないかとされた事例、または実際に連携した事例を取り上げます。

オンラインでは、発言するタイミングがつかめず話し合いが活発になりにくい、また表情がわかりづらく事例提供者の傷つき体験になりやすいという課題が指摘されています。そこでそういった課題を解消する方法として、一昨年実施したPCAGIP法をオンラインにアレンジした方法で行います。

- ①自己紹介
- ②事例の概要説明
- ③参加者が一人ずつ質問をしていく（事例提供者と事例提供者を取り巻く状況がわかるような質問）
- ④事例提供して得られた気づき
- ⑤参加しての感想

- | |
|--------------------------------|
| ■ 日時：2023年8月20日（日） 10:00～16:00 |
| ■ 方法：Zoomを使ったWeb開催 |



【日程】

- 10:00～10:20 挨拶、講師紹介
- 10:20～11:50 講演 佐藤 由美氏（群馬大学大学院）
「（仮）様々な課題を持つ子どもを協働で支援する事例検討のあり方」
- 11:50～12:00 質疑応答
- 12:00～13:00 昼食休憩
- 13:00～13:20 ワークショップの目的、方法の説明
- 13:20～15:00 事例検討（2つのグループに分かれて）
- 15:00～15:15 休憩
- 15:15～15:30 事例検討で感じたことをそれぞれのグループでシェアリング
- 15:30～15:50 全体会：それぞれのグループの学びの交流
- 15:50～ 終わりの挨拶およびアンケート入力

【参加申込みについて】

参加ご希望の方は、Formsに接続してアンケートに答え、申込みをしてください。非会員の方も歓迎します。また、この機会に（7月末までに）ご入会いただけましたら、参加費は無料となります。

Forms URL： <https://forms.gle/5rjPmFopjkbt57Kh8>

※学会HP>お知らせ、またはWSのページからも申し込み可能です。

参加費：会員は無料です。 非会員は1,000円です。



第21回夏季WS
QRコード

【参加費の振込先】*会員は無料ですので、ご注意ください。

加入者名：日本学校健康相談学会夏季ワークショップ
口座記号・番号：00230-2-141502

【申込期限】

申込みは、2023年7月22日（土）までとします。

【問い合わせ先】

黒子 彩子（杏林大学保健学部健康福祉学科）

住所：〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1 杏林大学 井の頭キャンパス

電話：0422-47-8000（内線2545） E-mail：ayako-kuroko@ks.kyorin-u.ac.jp